

家庭教育通信

1年生になったら 1

第61号 平成30年5月11日発行

～「遊びとお勉強」～

年長になったばかりというのに、お友達のAちゃんは絵本をもうすでにすらすらと読んでいるらしい。Bちゃんは足し算も習っているとか。それに比べてうちの子は……。お勉強の準備をしなきゃ。

来年4月には小学校に入学。学校公開や説明会などで小学校に行く機会が増えると、「わが子はおそこで、みんなと一緒にやっつけていけるのかな」と不安な気持ちがわいてきます。確かに、自分の名前が読めて書けること、時間を守って学校に来ることなどは標準化されています。

そのようななか、親に「遊んでいてばかりいないで、勉強しなさい」と言われた記憶がよみがえり、テキストを買い与え、鉛筆を握らせる……こともあるでしょう。

しかし、こどもたちは保育園、幼稚園で、友達や先生と過ごす中で、すでに、「遊び」を通して「勉強」「学習」をしているのです。

「遊び」は「学び」

工作やおままごと、砂・泥んこ遊びなどは数や量の感覚を育てます。また、お母さんやお友達に「お手紙を書きたい!」という意欲は文字や数への関心を引き出します。

みんなと遊ぶ中で、ルールを決めたり、工夫したりすること。勝つことの喜び、負けたときの気持ちのもちなおし、次はこうしようと思う意欲。これらは、目標に向かって努力することや自分の気持ちを調整しながら人と関わる力を育みます。おにごっこやかかけっこなど、おもしろさや悔しさを体感しながら動くことは体を動かす基礎となる「脳」を育てます。

このように、自分の「やりたい」を大切にしながら十分に遊べていることが、将来の学びの基礎になるのです。

家でテキストなどを大急ぎで購入し、読み書き計算を入学前に無理強いして、「お勉強」させることに大きな意味はありません。

それよりも、「今日はね、こんなことがあったんだよ」というこどもの声に耳を傾けましょう。こどもの「安心」を育むことが、入学後の先生やお友達との関係を安定させ、こどもの学ぶ意欲を高めていくことにつながります。

庶務課社会教育担当
TEL (3647) 9676